

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成29年度 埼玉県医師会 精度管理調査試料梱包・発送作業に参加して

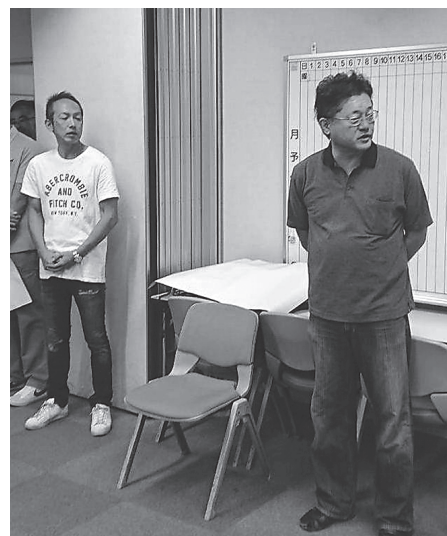
平成29年9月2日(土)に埼玉県医師会精度管理調査の試料梱包、発送作業が行われました。初めての参加で早目に会場に到着したつもりが、すでに大勢の理事の皆様が集まっていちゃって、梱包ラインのセットや各試料の番号振りは大方済んでいました。

定刻の午前9時になり、神山副会長のご挨拶と山口精度管理委員長からの作業説明の後、梱包作業がスタートしました。私は一般検査部門の尿検査試料を担当しましたが、何より想像を超える試料の山に圧倒されました。各施設毎に必要な試料が異なるうえ、破損や過不足の無いよう細心の注意を払い、目視確認のみならず、声出しや指差し呼称も行いながら1つ1つ作業にあたりました。梱包は一連の流れ作業のため、どこかで流れが滞ってしまうと全体の効率が落ちてしまうというプレッシャーと、落ち着いて過不足の無いようにと自身に言い聞かせる心境が常に交錯しました。各施設宛ての試料梱包が無事に終わって安堵した矢先、各試薬メーカー宛ての梱包において内容の再確認が必要になる事態となりましたが、最終的にずらっと並べられた配送用袋の山を目の当たりにすると、大いに達成感に浸りました。

今回の梱包・発送作業に参加して、人間である以上必ずミスは起こりうるという事実を再認識するとともに、精度管理事業の大変な労力を実感し、精度管理に対する認識が改まったと思います。試料を同じ条件下で各施設に発送するには、梱包のステップで誤りがあってはならないですし、それゆえ精度管理の質にも大きく関わってくると感じました。

最後に、梱包・発送作業に携われた理事、研究班員の皆様、本当にお疲れ様でした。

(文責：柿沼智史)



平成29年度 第1回検査室運営研修会
認知症について理解を深めよう!!【第2弾!!】
「認知症サポーター養成講座」
～認知症サポーターになって、オレンジリングをGETしよう!!～

去る9月26日(火)さいたま赤十字病院2階 多目的ホールにて、平成29年度第1回検査室運営研修会が開催されました。今回は、平成28年度第2回研修会で開催され、好評だった“認知症について理解を深めよう!!”に続く第2弾として、県・市町村主催で行なわれている「認知症サポーター養成講座」を検査室管理運営委員会が窓口となり、埼臨技研修会として企画しました。

講師は、社会福祉法人シナプス さいたま市中央区北部圏地域包括センター ナーシングヴィラ与野「認知症サポーター養成講座」キャラバン・メイト5名が担当し、講義・寸劇・体操など参加者を飽きさせない内容でした。

下記に、研修会参加者の感想文を掲載します。



■「認知症サポーター養成講座」を受講して

越谷市立病院 熊谷 佳奈江

数年前、小学生だった娘が「認知症サポーターになったんだ!」とオレンジリングを学校から持ち帰ってきました。当時は恥ずかしながらどんな内容であったのか話も聞かず受け流してしまいました。そんな私も認定認知症領域検査技師の先輩が、丁寧かつ穏やかに高齢の患者さんに対応している姿を常に見ていることや、第45回埼玉県医学検査学会の体験コーナーにて認知症検査のお手伝いをさせていただいたこともあり認知症に関心を持つようになりました。そして数ヶ月前からは神経生理学的検査にも少しずつですが携わるようにもなりました。

今回「認知症サポーター養成講座」を受講し、2月に受講した認知症の病態や認知症検査に関することを主に学んだ認知症領域の指定講習会とは違う側面から、認知症の人の気持ち、ご家族の気持ちを理解することができました。講師の地域包括支援センターの皆さんの物腰のやわらかさと明るさに温かさを感じました。講義といっても話だけではなくビデオを使い、いくつかの身近によくありそうな事例において、認知症の人への間違っただ対応、のぞましい対応の仕方を学び、とても分かりやすい内容でした。また、今回の受講者が検査技師ということで「認知症の患者さんの心電図検査をする際の対応」のミニ劇場もありました。私も検査技師役として劇に参加させていただきましたが、普段の自分の対応を見つめなおす良い機会となりました。

「認知症の人は困っている、さりげなく助けてあげる」ということを繰り返し話されており、認知症の人への対応の心得“3つの「ない」”1. 驚かせない、2. 急がせない、3. 自尊心を傷つけない、このことが強く心に刻まれました。この“3つの「ない」”を常に忘れず、仕事だけではなく認

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 臨床化学基礎講座 臨床化学の基礎のキ・ソ part 2

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成29年7月24日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 906号室 点数：専門教科－20点

講演 1：症例から考える検査結果の考え方・捉え方 初級編

講師：柴田 真明（心臓血管研究所付属病院）

講演 2：新人技師が知っておきたい内部精度管理の基礎

講師：安田 達明（上尾中央医科グループ 株式会社アムル）

参加人数：会員73名 賛助会員5名

出席した研究班班員：巖崎達矢 柴田真明 永井謙一 安田達明 三木隆治 大谷真澄
栗原将希 小林麻里子

研修内容・感想など

今回は、「臨床化学の基礎のキ・ソ part2」として臨床化学検査研究班員である柴田班員と安田班員の2名による講演であった。

柴田班員からは「症例から考える検査結果の考え方・捉え方 初級編」と題して、臨床化学検査を担当する技師、特に若い技師を対象とした講演であった。日頃の業務の中で経験する事例で、特に理解しやすい症例を具体的に取り上げた解説をしていただいた。検査技師が自分の出した結果を理解するためには、検査結果値から異常値を見つけて推察される疾患を考える方法と、疾患や症状の状態から、推測される異常値を考え、検査結果の妥当性を考えて判断する方法があると思われる。患者の測定値を提示して、異常値を探してから考えられる疾患を見つける方法の説明と、検査結果からどのような患者の状態が考えられるかといった解説を総蛋白、アルブミン、総コレステロール、カルシウム、尿酸など各項目ごとに自身の経験談も含めた分かりやすい説明をしていただいた。最後に検査結果から患者の病態を推測するためには、どの様に考えることが必要かをスライドで提示していただいた。

安田班員からは「新人技師が知っておきたい内部精度管理の基礎」と題した、われわれ臨床化学検査の技師が、正確な検査を行う上で大切な精度管理について、今回は特に日常の業務として行っている内部精度管理について講演であった。精度管理とは何か？から始まり、標準偏差と変動係数について、管理図の見方としてのバラつき、シフトとトレンドなどの解説を非常にわかりやすい丁寧な説明をしていただいた。臨床化学検査の技師は分析装置を使い業務を行っているが、精度管理図から分かる機器の異常や試薬の劣化など事例を提示して説明していただいた。またキャリブレーションに関しても基礎から解説いただき、安易な校正はかえって機器の状態を知る上で、原因を分からなくしてしまう事もあるとのことでした。

今回の内容をすべて理解する事は若い技師の方には難しかったかもしれないと思われるが、臨床化学検査の業務を行ってゆく上で、少しでも考え方や、新たなる発見をする上での刺激になり、今回得た知見をもとに今後の業務に役立てていただけたらと思う。

（文責：三木隆治）

テーマ 第20回 秩父臨床化学セミナー ～ 秋季1泊研修会 ～

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成29年9月2日14時00分～平成29年9月3日12時00分

会場：宮本の湯（秩父郡小鹿野町） 点数：専門教科－30点

9月2日

講演 1：秩父臨床化学セミナーを振り返って ～臨床化学検査の移り変わり～

講師：小山 博史（JCHO埼玉メディカルセンター）

講演 2：自動分析装置の比色分析について

講師：巖崎 達矢（東松山医師会病院）

講演 3 : 外部精度管理の心得

講師 : 永井 謙一 (埼玉県済生会川口総合病院)

講演 4 : 臨床化学検査お悩み相談Q & A

講師 : 安田 達明 (上尾中央医科グループ 株式会社アムル)

小林麻里子 (北埼玉医師会立メディカルセンター)

講演 5 : ナイトセミナー ~データの見方・考え方: あなたならどう考えますか?~

講師 : 神山 清志 (一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター)

9月3日

講演 6 : 多点検量線の実際について

講師 : 中岡 啓一 (極東製薬工業株式会社)

講演 7 : 酵素活性測定における緩衝液の重要性

講師 : 遠藤 美香 (和光純薬工業株式会社)

参加人数 : 会員43名 賛助会員21名

出席した研究班班員 : 巖崎達矢 柴田真明 永井謙一 大谷真澄 安田達明 三木隆治

藤本丈志 小林麻里子 大出淳

研修内容・感想など

今年で第20回目となる秩父臨床化学セミナー9月2日~9月3日の2日間で秩父郡小鹿野町の宮本の湯で開催した。今回は臨床化学の基礎知識をテーマに「自動分析装置の比色分析について」・「外部精度管理の心得」・「臨床化学お悩み相談Q & A」・「多点検量線の実際について」・「酵素活性における緩衝液の重要性」について講義を行い、また節目の20回目という事で「秩父臨床化学セミナーを振り返って ~臨床化学検査の移り変わり~」・「ナイトセミナー ~データの見方・考え方: あなたならどう考えますか?~」を小山技師、神山技師の臨床化学検査研究班の先輩方お二人に講演をいただいた。

「秩父臨床化学セミナーを振り返って ~臨床化学検査の移り変わり~」では、この20年で変化した点として紙ベースでの依頼・報告から電子カルテ・オンライン化など検査システムの進歩により多量の検体を診察前に検査を行う事が今では必須になっていること、検査法の標準化が進みどの検査室で測定しても変わらないデータを提供出来るようになったことなど、臨床化学の分野は大きく進歩していることが挙げられた。今後は検査室の施設認定や在宅医療への参加など臨床検査技師が検査室から出てどのように医療を提供できるか?また検査法の標準化も全てが整っているとは言えず求められる時代に合わせて、まだまだ臨床検査技師が関わっていかねばならないことが沢山あると報告があった。「ナイトセミナー ~データの見方・考え方: あなたならどう考えますか?~」では、多くの事例を提示し、病態によるデータの変化だけではなく測定前・測定・測定後による『測定』に関するデータ事例を解説があり、最後には実際の症例も提示していただいた。臨床検査技師も測定するだけではなく依頼へのレコメンドーションや検査説明など臨床へ返すことが求められているが、異常値が病態などに左右されるものではなく検査過誤によるものであっては決してならず、測定に使用する機器や試薬に熟知することが重要だと改めて感じた。

1日目の「自動分析装置の比色分析」では、2波長測光や自動分析装置での分析法・検量係数や吸光度から濃度の計算方法について、「外部精度管理の心得」: 精度管理に用いられる評価の方法やトレーサビリティ・試料の特性や試料溶解時の器具や溶媒の注意点について講演していただいた。

また、臨床化学お悩み相談Q & A では研修会時に日常業務で困っているをことをアンケートし、とくに質問が多かったフィブリン発生時の血清の採り方・パニック値の報告や再検基準についての2題に対し参加者と一緒にディスカッションし明日からの業務に参考になる内容であった。2日目の「多点検量線の実際について」では、濃度と吸光度変化に直線関係がない抗原抗体反応を原理とする検査項目の場合に使われる多点検量線の性質や補正時の限界について、「酵素活性測定における緩衝液の重要性」では、酵素測定における原理・反応性・標準化について、またALPを例にアイソザイムと緩衝液の反応性・血液型における小腸型ALPの食後の変動について講演していただいた。

今年も講義後、フロアからの活発な意見・質問があり講義が終わった後の就寝までの間も活発な意見交換が行われた。講義の内容以外でも他施設の情報を得られ有意義な研修会であっ

た。本セミナーで得られた情報・知識を業務に役立てていただければと思う。

(文責：巖崎達矢)

テーマ **あなたもなれる認定技師 ～現場で必要とされる検査技師に～**

主催 公衆衛生・一般・血液・輸血検査研究班

実施日時：平成29年9月8日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科－20点

講 師：小関 紀之（獨協医科大学越谷病院）

佐藤 友紀（埼玉県済生会川口総合病院）

新 秀明（株式会社 ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員65名

出席した研究班班員：

公衆衛生：菊地孝司 穴原賢治 榊原外江 鈴木勤 石井孟 立塚梓

一般検査：小関紀之 川音勝江 室谷明子 槇島碧 藤村和夫 柿沼智史

血液検査：原誠則 軍司雅代 石井千晴

輸血検査：渡邊一儀 神戸考裕 久保居由紀子 宮澤翔子 野呂光恵

研修内容・感想など

今回は、血液・一般・輸血の認定技師3名に講演していただいた。認定資格を取得するきっかけ、試験勉強に使用した参考図書、試験の時の様子や試験内容、実技試験での注意点、資格取得後の状況等について話して頂いた。参加者の中には今後受験を控えている人もおり、大変参考になる内容であった。

認定資格取得後は後輩や実習生の教育や指導を任せられたり、稀な症例に遭遇した場合でも自信を持って臨床へ検査結果が報告できるようになったという話もあり、自身のスキルアップのみならず、職場全体のスキルアップや臨床への貢献と幅広く活躍されていた。試験に合格したから終わりではなく、その後も新たな知識を習得していくことが重要であると感じた。

(文責：立塚梓)

テーマ **輸血と臨床シリーズ –麻酔科領域から見た大量輸血・緊急輸血–**

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成29年9月15日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講 師：長坂 浩（埼玉医科大学病院 麻酔科診療部長）

参加人数：会員92名 賛助会員2名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一儀 久保居由紀子 長谷川卓也 斎藤祥子 野呂光恵
小林真弓

研修内容・感想など

今回の研修会は、長坂氏に麻酔科領域から見た大量輸血・緊急輸血について講演していただいた。大量輸血とはから始まり、慢性貧血と急性貧血の違い、術中に出血しやすい病態、大量出血をきたしやすい手術、輸血の副作用についてなど基礎的な分野を含めてわかりやすく説明していただいた。「手術は出血との戦いである。」という言葉が印象的で、現在までの出血量が把握できない場合（術前からの出血や体腔内への出血など）や今後の出血量の予測ができないなどの現実の厳しさの中で、輸血副作用や合併症等の点からもなるべく輸血を避けたいという考えのもとに、麻酔科の先生方は輸血開始のタイミングに日々頭を悩まされていることが理解できた。

今回の研修より、現場とのコミュニケーションがいかに大切であるということを再認識できた。その連携を活かし現場が輸血を必要とする時には円滑に製剤を提供できるように輸血検査担当技師は努めなければならないと感じた。

普段、なかなか現場の考えを聞く機会がなかったので貴重な講演であり大変勉強になった。

(文責：久保居由紀子)

平成29年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第6回 理事会議事録

日時：平成29年9月14日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：(理事)津田 神山 岡田 矢作 小山
奈良 猪浦 長岡 松岡 小島
石井 濱本 藤井 長澤 伊藤
濱田 武関 阿部

(監事)遠藤 細谷

欠席：(理事)島村 神嶋 山口 鳥山

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は19名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告(平成29年8月10日～平成29年9月13日)

8月10日(木)平成29年度第5回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、
小山、奈良、猪浦、長岡、松岡、
小島、石井、藤井、長澤、神嶋、
伊藤、濱田、鳥山、武関、阿部、
遠藤

8月10日(木)第17回わらび健康祭り第2回実行委員会：藤井

8月18日(金)第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会第6回実行委員会：
津田、濱本、小山、神山、奈良、
猪浦、長岡、松岡、小島、藤井、
神嶋、伊藤、濱田、山口

8月18日(金)日臨技検体採取講習会前日準備：
阿部、武関、矢作

8月18日(金)会計部会：松岡、小島、石井

8月19日・20日(土・日)日臨技検体採取講習会実務委員：
阿部、矢作、小山、山口、鳥山、
武関

8月23日(水)第12回日本臨床検査学教育学会学術大会及び式典：津田

9月2日(土)埼玉県医師会精度管理試料箱詰め作業：

神山、岡田、山口、矢作、小山、
奈良、長岡、松岡、濱本、藤井、
長澤、濱田、阿部

9月4日(月)平成29年度第1回検査室運営研修会事前会議：長岡

9月10日(日)江利川毅氏(公立大学法人埼玉県立大学理事長)叙勲受章記念祝賀会：岡田

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 第11回埼玉医療安全大会の後援を行った。
- 2) 第16回血液浄化セミナーの後援を行った。

3) 8月23日、第12回日本臨床検査学教育学会学術大会及び式典に津田会長が出席した。

4) 9月6日、認知症対応力向上講習会B ステップ1 開催案内・ステップ2 予算書・ステップ3 研修会申請書 を日臨技へ提出した。

5) 9月10日、江利川毅氏(公立大学法人埼玉県立大学理事長)叙勲受章記念祝賀会へ、岡田副会長が出席した。

6) 9月9日・10日、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017さいたまが開催された。

7) 9月13日、埼玉県より当会推薦6名の平成29年度公衆衛生事業功労者知事表彰受賞決定の報告があった。

表彰式

日時 平成29年10月19日(木)

午後3時～4時

会場 埼玉会館 小ホール

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第460号、9月15日発行予定

3 事業部

1) 8月10日、第17回わらび健康まつり第2回実行委員会に藤井理事が出席した。

2) 9月4日、第1回検査室運営研修会事前会議を行った。

3) 9月8日、全国「検査と健康展」予算書、実行計画書を日臨技へ提出した。

4) 9月20日、第3回わらび健康まつり実行委員会に藤井理事が出席予定。

5) 9月25日、第12回深谷市福祉健康まつり第2回実行委員会に濱田理事、阿部理事が出席予定。

4 学術部

1) 特になし。

5 精度保証部

1) 特になし。

6 会計部

1) 平成29年度正会員費28名分140,000円、入会金27名分27,000円、合計167,000円の入金があった。

2) 生涯教育推進研修会助成金50,000円×1研修会、合計50,000円の入金があった。

3) 全国「検査と健康展」助成金500,000円の入金があった。

4) 石井印刷へ、埼臨技会誌Vol.164 No1印刷代1,263,600円、埼臨技だよ459号印刷代170,165円、仕分費23,998円、合計1,457,763円を支払った。

7 精度管理委員会

1) 9月2日、平成29年度埼玉県医師会精度管理試料箱詰め作業を行った。

8 一都八県会長会議

1) 10月28日に支部幹事学術会議を開催予定。

9 日臨技関甲信支部

1) 特になし。

10 日臨技

1) 特になし。

11 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

1) 9月15日、第7回実行委員会を開催予定。

2) 若手企画に向け、SNSの埼臨技カウントを取得予定。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

1) 会員動向(平成29年度分) 平成29年9月1日現在

会員数 2,869名
(新入会員 238名[平成28年度会員数2,730名])
賛助会員 82社[平成28年度 82社]
承認された。

2) 理事会日程の変更について
関連行事の都合上、第8回理事会を11月9日(木)、第9回理事会を12月14日(木)に変更したい。
承認された。

2 総務部

1) 特になし。

3 事業部

1) 第12回深谷市福祉健康まつり参加実務委員
について
承認された。

4 学術部

1) 特になし。

5 精度保証部

1) 特になし。

6 会計部

1) 特になし。

7 精度管理委員会

1) 特になし。

8 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

1) 特になし。

Ⅳ. 議題

1) 特になし。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

○越谷市立病院

採用条件: 正職員 平成30年4月1日採用
連絡先: 048-965-2221 内線2201
臨床検査科 吉原

○東海大学医学部付属東京病院

採用条件: 臨時職員(パート)
連絡先: 03-3370-2321
内線: 5617(事務課 富澤)
5613(事務課長 嶋崎)

○医療法人 誠壽会 上福岡総合病院

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 049-266-0111
人事採用担当 柚木(ゆぎ)

○医療法人 のうみ消化器内科小児科クリニック

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 0480-42-7233
大谷・小林

○医療法人 山柳会 塩味病院

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 048-467-0016
法人人事部長 神谷秀悟

○川越耳科学クリニック

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 080-4734-5588
人事採用担当 坂田柱熙

○医療法人社団 富家会 富家病院

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 049-264-8811
人事課 小出

○医療法人 新青会 川口工業総合病院

採用条件: 正職員
連絡先: 048-252-4873
総務課人事担当

○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 048-645-1256
本部長 星野

○特定医療法人 俊仁会 埼玉よりい病院

採用条件: 正職員
連絡先: 048-579-2788
事務長 井上

○医療法人 智健会 イーストメディカルクリニック

採用条件: 正職員 臨時職員(パート)
連絡先: 048-799-2111
事務長 長谷川 英

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

平成29年度日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第54回)が10月28日・29日に開催されます。この拙文が掲載される埼臨技だよりが皆様のところへ届く頃には準備もラストスパート!といった雰囲気であろうと思います。

以前にも執筆させていただきましたが、今学会には若手の実行委員が参加されており、彼らの企画力・実行力には尊敬の念をも抱きます。私も実行委員としてあるチラシを作成する機会をいただきました。結果、ほとんど自分の芸術性のなさにあきれました。そういえば、小学生の頃から、絵を描くことや物を作ることなどは大の苦手だったことを思い出し、中学生の夏休み自由研究で作成した怪しいシロモノを失笑された経験も・・・

まあ、嘆いていても始まらない。自分が貢献できそうな分野で(力仕事?)学会成功に向けて頑張りたいと思います!

(長岡 記)

